

今年度第6回目となる外国語活動・外国語科の研究授業を 小曾根 瑞恵 教諭、榊 芳依 教諭が行いました。協議会では、自作の絵本を活用した特別支援学級の外国語活動の指導方法について協議を行いました。指導・講評では、京都光華女子大学教授 田縁 眞弓先生よりご指導いただき、研究を深めました。

## 研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～ 思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者：4組(3～6年生) 担任 小曾根 瑞恵 教諭・榊 芳依 教諭

単元名：「Let's go shopping!」

指導講評：京都光華女子大学教授 田縁 眞弓 先生より



### 〈研究経過報告〉

#### 研究の視点について

##### 視点1 表現を繰り返し使うための工夫

オリジナルの絵本「Let's go shopping!」に出てくる表現についてゲームなどを通して、食べ物や数の表現に慣れ親しむようにした。外国語活動への苦手意識をもっている児童がいるので、数が出てくる音楽を活用したり、友達や先生とのやり取りで繰り返し使ったりすることで慣れ親しむようにした。

##### 視点2 目的や場面設定を明確にした言語活動の工夫

本時で使用するオリジナル絵本は児童本人が写真で登場することで、興味をもたせるようにし、本時でも学習内容の理解を深め、自分の欲しいものを伝えようとする気持ちを高めることができると考えた。また、今後予定している買い物の学習、調理実習など教科「生活」で行う学習にもつなげ、本時の表現に楽しめるようにした。

### 〈授業者自評〉

いつもと違う雰囲気緊張していた。普段も他教科だとよく発言する児童が外国語活動では下や後ろを向いている。分きたいけど分からない、どうしようという不安が強い。ゲームを取り入れることで、少しずつ参加できるようになった。本時では声は小さいが言おうとしていたり、活動に参加したりできた子がいた。調理実習につながるようこの単元を設定したが、絵本がなかなか見つからず、自作教材を作成した。3～6年生までの学年差、学んできた経験も違う中で授業を考えていった。

### 〈研究協議会〉

#### 視点1 児童一人一人が活動できていたか。

- ・店員を高学年に任せるなどしていたことで活躍していた。
- ・店の設定が一つだけだった(T2がいるので2か所でもできた)、お客さん役が背中を向けていた(みんなに見えるよう、向きを90度変えると見えた)、こともあり、待ち時間が長かった。待っている児童も一緒に買うときのセリフを言うなどすれば、話す機会が増えたのではないかな。
- ・この学習のエンドプロダクトは何か。学年差、個人差がある中、一人一人、どこまで達成させたいのかを個別に設定する必要があるのではないかな。
- ・振り返りの項目はよかったか。「楽しかった」だけでなく、「〇〇ができたから楽しかった」になるのではないかな。

→次頁に講師の田縁先生からご指導

## 視点2 絵本の表現を尋ねたり、答えたりするのに適した活動になっていたか。

- ・全体的にやり取りの英語を使う機会が少なかった。また、4時間目／4時間の授業であるならば、絵本を一緒に読めるぐらいになっていてもよかったのではないか。
- ・児童がこの時間に言う英語の表現を理解していなかったのではないか。児童が言えるようになる支援をもっと積極的にする必要があったのではないか。
- ・表現が出てこなかったのは、実際に本を聞きながら声を出していないから。
- ・授業の中で、教員がもっとクラスルームイングリッシュや本時で使用する表現を使うとよかったのではないか。話す経験、聞く経験を増やしていきたい。抵抗感は毎時間積み重ねることでなくなっていくのではないか。

〈指導・講評： 京都光華女子大学教授 田縁 真弓 先生〉

### 指導者の教材研究

- ・今回、児童の写真入りの手作りの教材を作成したことは、児童の興味関心を高め、大変よかった。手作り感もよかった。
- ・支払いに「4組ペイカード」を活用したことで、現実の買い物の再現ができていた。また、難しいお金のやり取りがなくて済むので抵抗なくできるのは良いアイデアだった。
- ・買い物の際、同じものを買う、大量に買うなどの姿があり、前に買った子とのつながりがなかった。「生活」の学習につなげるのであれば、教師の投げかけの中で、「みんなでカレーを作るための買い物をしよう。このクラスの人数だったら何が何個必要かな。〇〇が好きな子がいるから入れよう。」などのイメージをもたせてからがよかったのではないか。

### 中間指導の在り方

- ・中間指導では、前半に買った野菜の数や種類に注目していたが、「めあての振り返り」をするとよい。今回の目標が「ほしいものが伝わるように言ったり、聞いたりしよう」なので、やりとりができていたかの視点で指導をする。その際、高学年の児童のやり取りを見せたり、2人の教師がやってわざと間違えて指摘させたりなどの工夫もできる。そうすれば、「やり取り」にフォーカスできたのではないか。

### 振り返り・評価について

- ・「むずかしい」という評価項目は入れない。「楽しい」を使わない。指導者が児童に個別にどこが楽しかったか聞いたが、言語化できていなかった。今回のように、乱雑にせず、評価は段階を示すとよい。6年生はここを目指そう、4年生はここを目指そうと言える同じものがよい。また、段階にすると、今回の自己評価は上に上がった、下がったなど自分の活動に対しての振り返りをしやすい。どうして上がったのか、下がったのかを考えさせるきっかけになる。
- ・ネガティブな思いをもっている児童に対しては、聞き取れなかったら×、言えなかったら×ではなく、個別に「あなたはどー言いたい?」「どう言えたらうれしい?」という声掛けをし、支援する。
- ・使う表現をきっちり言えるようにした方が、児童は達成感を得られる。途中で振り返りし、外国語としての学びが児童に分かるようにしたい。そのためにも指導者の使う英語を増やす。「守る」より先に進めるかもしれない。

【今回の振り返りの4段階評価をみんなで考えた一例】 真ん中をつけたがるので5ではなく4段階で評価する。

人に教えられくらい言えた。	自分からたくさん伝えられた。	一人で自信をもって文章で言えた。
一人で言えた。	自分から伝えられた。	友達や先生と一緒に言えた。
友達と一緒に言えた。	友達や先生と一緒に言えた。	言おうとしたけど言えなかった。
まだ言えない。	言えなかった。	まだ言えない。

## ストーリーテリングで大切にしたい6つのポイント ~The English Teachers' Magazine December 2023

### 1 場面を活用しよう

本から自然に英語表現を理解する。

### 2 子どもの知っている知識を活用

伝えたい気持ちが十分高まるので、子どもたちと英語でやり取りをする機会をつくるようにする。

### 3 音、意味、綴りの結びつきを大切に

絵本を読むときに全員が文字にも注目できるようにする。(プロジェクターの活用など)

### 4 英語で読むための始めの一步

「英語を読みたい」という思いをもたせる。

### 5 一緒に学びあうことが大切

本を活用し、リテリング、劇で発信するなどの多面的な学びの機会を得ながら、外の子どもたちと協力してできた体験をすることが貴重な学びとなる。

### 6 子どもにわかる評価をする

しっかりと指導目標を立て、そこで培った力をどういった形で評価することを考える。今回みんなで話し合ったような項目を考え、あらかじめ子どもたちと共有し、毎時間振り返り用紙で見取る。